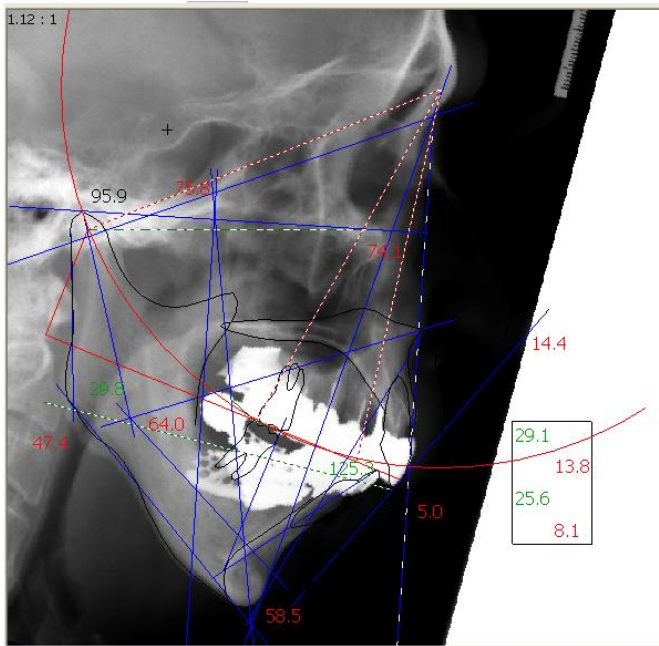


当院の「精密咬合総入れ歯」の 特徴

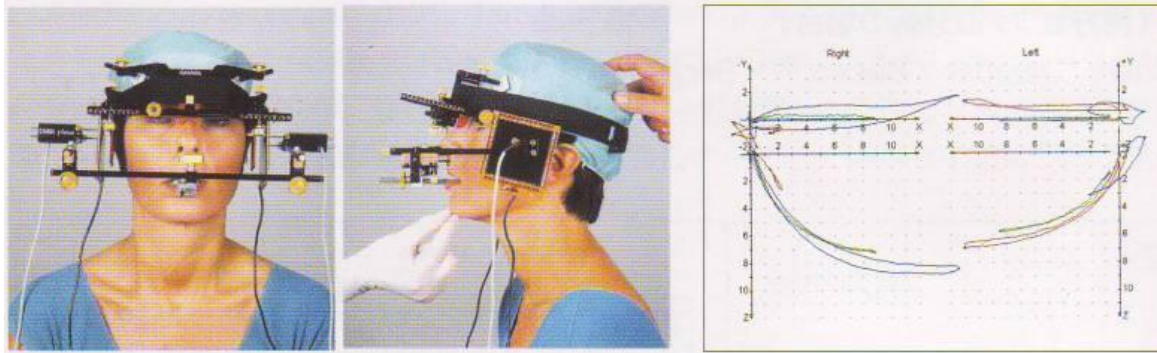
1.

- 矯正で使うレントゲンを使い噛み合わせの位置を分析します



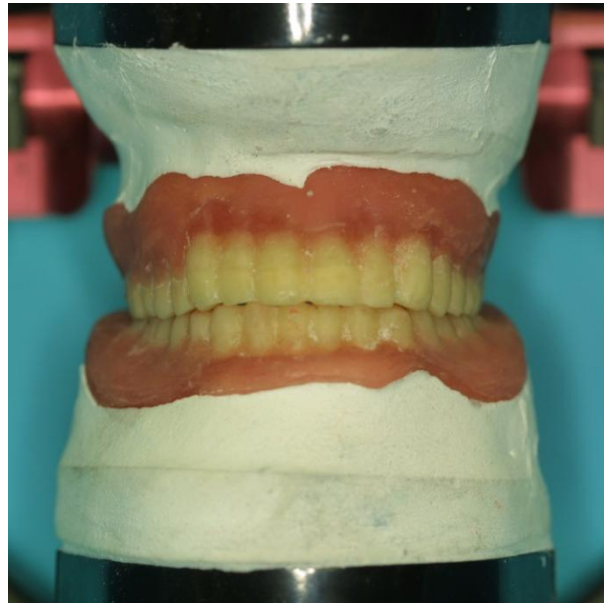
2.

- コンピューターで顎の状態を調べます



3.

- 治療用入れ歯で噛み合わせを改善します



4.

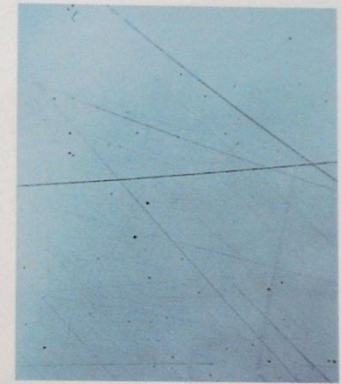
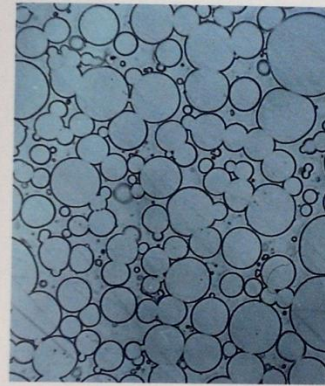
・緻密な仕上がり

普通の総入れ歯は型枠を作り、そこにレジンを入れて、熱を加えて固めます。

その際に収縮・変形・誤差が生じてしまいます。

精密咬合総入れ歯は、6気圧をかけ持続してレジンを注入していくことで熱で収縮した分のレジンを補充するのでより正確で頑丈、なおかつ薄い入れ歯を作ることができます。

レジンの粒子が緊密に固まることで、入れ歯の薬剤がにじむことなく、変な味がしません。



上は2種類の加熱加圧重合レジンを325倍に拡大した写真です。

左は従来の材料でメーカーの指示に従って重合したもので、モノマーとポリマーが完全に混和されず気泡を内包しています。右はSR-イボカップによる完全に均質な構造で相違が明瞭に観察できます。

5. 噛み合わせの入念な最終調整

噛み合わせ診断で計測したコンピュータの分析データを機械に入力し、精密に入れ歯の噛み合わせの最終調整を行います。

上下の歯の噛み合わせはもちろん、横に歯をずらした状態等も入念に確認します。

(特に入れ歯は横にずらした時のバランスが悪いと、外れたり当たって痛みが出たりします。)

